

「聴解作文」の授業報告

- 語彙リストとメモノートの働き -

山崎 由喜代

要 旨

2006年度1学期に担当した聴解作文の授業のうち、聞き取りと語彙の手当ての問題を中心に報告する。講義を聞いてメモノートを取る、メモノートにしたがって課題作文を書く、という聴解と作文を合わせた聴解作文の授業をレベル5（日本語能力試験2級程度）の学生を対象に行った。語彙の手当てとノートの取り方の指導なしにノート取りをすると、学生間のノートに大きな差が見られた。そこで、語彙リストを配布して語彙の手当てとメモノートの取り方の指導をしたところ、全員がほぼ要点を捉えたノートを取ることができるようになった。語彙リストから講義内容が予測できるため、聞き手が関連知識を使って効率的・能動的な聞き方をする、聞き取ったことをメモノート処理することで次の聞き取りに積極的にになれることが理由として考えられる。

【キーワード】講義テープ 要点 語彙リスト 予測 メモノート 課題作文

Report on the Class of “Listening and Writing”: the role of list of vocabularies and quick note-taking

YAMASAKI Yukiyo

【Abstract】 This paper reports on listening comprehension and providing vocabulary lists in the class of "Listening and Writing" held for students of level 5, who are assumed to be equivalent to level 2 of The Japanese Proficiency Test. The class features taking notes by listening to tapes of seminars recorded from radio programs, and writing a composition. The difference on students' performance of taking notes without assistance of vocabulary lists and instruction of note-taking skills was apparent. However, it was shown that with a vocabulary list and note-taking skills, students could improve their ability and quick note-taking by listening. The reasons could be explained as follows; Firstly s/he could listen actively and efficiently using his/her knowledge since s/he could imagine the content of the seminar from the vocabulary list. Secondly, s/he could listen to the following tape actively and freshly after the comprehended information had been transferred to the paper by taking notes.

【Keywords】 tapes of seminar, point, list of vocabulary, estimate, notes, task writing

1. はじめに

筑波大学留学生センターの日本語補講 2006 年度 1 学期において、レベル5（日本語能力試験 2 級程度）の学生を対象に聴解作文の授業を行った。この聴解作文の授業は、講義形式のラジオ番組を聞いて要点をノートに取ることができる、ノートを参照しながら講義内容にしたがって課題作文を書くことができる、という2つの技能習得を目的とするものである。この授業は『大学の授業へのパスポート』¹を参考にして組み立てた。聴解と作文を合わせて1つの授業とした理由は次の3つである。第1に、聴解後の課題作文のために、講義の要点は何かという問題意識を持った聞き方を促すためである。第2に、講義内容にしたがって書くことにより、何を書くか、書くべき内容を考え出す負荷が軽減され、「どのように書くか」という点に作文練習の目的が集約できるためである。講義内容にしたがって書くのであれば、書くべき事柄・内容は自ずと定まってくる。それをどのように日本語で書けばよいかという狭められた範囲の中で作文の練習をすれば、書かれるべき事柄・内容が予め添削する側にもわかっているため、自由作文と比べて、的を得た効果的な添削・フィードバックが行いやすいと考えたからである。

では、学生は作文の材料となるノートを取ることができるのだろうか。語彙の手当てなしにテープを聞いてノート取りをしたところ、ノートに書かれた情報量とノートの取り方において大きな差が見られた。これを受けて、以降、語彙リストを配布して語彙の手当てと、素早くノートを取るためのメモノート取りの練習をした。このようにしてノート取りをしたところ、要点をほぼ押さえ、しかも一目でわかりやすいノートが取れるようになった。この理由として、語彙リストが講義内容を予測させる手がかりとなること、そのため聞き手が自身の持つ関連知識を参照しながら能動的・効率的に要点を聞き取るうとすること、そして、実際にメモノート取りができるようになったことが考えられる。なお、ここで言うメモノートとは文章形式で取るノートではなく、単語や短い語句などを使って書くメモ形式のノートの取り方のことである。それには「労働」などの簡素化した文字（以下、「簡素文字」とする）や「学食」などの縮約語、「：」「」などの記号を使って、簡易簡便に書き表すことも含まれる。本稿では、2006 年度 1 学期に 9 回にわたって行った聴解作文の授業例から講義の聞き取りとノート取りの問題を中心に報告する。

2. 本授業の概要

2.1 目的

講義テープを聞いて要点をノートに取ることができる、ノートを参照して講義内容にしたがって課題作文を適当な文章構成で書くことができる、という2つの技能習得が目的である。

についてはキーワードや要点を聞き取る、意味段落に分けて聞き取る、という2つを目標とした。については、ノートを参照しながら課題に応じて講義内容の取捨選択・組み合わせを

して書くことを目標とした。したがって、講義テープの内容をそのまま順を追って文章に再生することではない。

2.2 対象者

日本語補講レベル5を対象とした。レベル5の日本語力は日本語能力試験2級程度で、漢字力は千字程度である。13名が60%以上出席し、全てのテストを受けた。

2.3 教材

(1) 音声テープ

講義形式のラジオ番組の録音テープを4本を使用した。2006年度1学期の場合は、NHK高校講座とNHK文化セミナーの番組から録音した。前年度の2005年度に同様の授業を実施したところ、受講者から講義者が話している画像がほしいという要望があった。しかし、ラジオ番組以外に適切なテレビ番組が見あたらなかったため、画像のない音声テープを使用せざるを得なかった。以下に使用順に並べて示す。この4本の中で学生が最も難しく感じたのは一般視聴者を対象としたNHK文化セミナーの番組で、最も易しく感じたのはNHK高校講座保健体育の番組のようであった。

NHK ラジオ高校講座倫理「自分らしく生きる」(2006年録音 20分講義のうち4分程度を使用)

NHK ラジオ高校講座倫理「宗教をどう考えるか」(2006年録音 20分講義のうちはじめから4分程度を使用)

NHK 文化セミナー「普遍化したユニフォーム」『家事とモノの文化』(1999年放送、2005年再放送時に録音 30分講義のうち8分程度を使用)

NHK ラジオ高校講座保健体育「スポーツルールの変更」(2006年録音 2分講義のうち4分程度を使用)

NHK ラジオ高校講座倫理「宗教をどう考えるか」(2006年録音 20分講義のうち中頃4分程度を使用)

(2) 練習プリント

音声テープのほかに以下のプリント練習問題を配付した。以下、使用順に並べる。

デアル体への書き換え練習プリント

簡素文字・縮約語・記号の紹介及び書き換えプリント

メモ書きへの書き換え練習プリント

意味段落モデル文プリント

序論・本論・結論の文章構成モデル文プリント

講義テープ別語彙リスト

2.4 テストと評価

小テスト 20%、期末テスト 45%、宿題 35%とした。練習体験の積み重ねが大事だと考え、宿題に全体評価の3分の1を、実力を問う期末テストには半分近くを配分した。

まず、1回10%の小テストを2回実施した。1回目の小テストは、1文をメモ書きに書き換える問題と短い文章を読んでメモノートを作る問題で、これはメモノートを取るための基本である。2回目の小テストは「スポーツルールの変更」(3分)を聞いてメモノートを取り、それを見て課題作文を書くことを課した。いずれも自宅での宿題としたため、学生はテープを小刻みに巻き戻して聞く可能性が考えられた。それで、期末テスト前に少なくとも一度はテープを止めずに聞いてノートを取る経験をしておく必要があった。以下に小テスト2回分の問題と語彙リストを示す。

第1回小テスト問題

問題1. 次の各文をメモ形式に書き換えなさい。 日本では少子化が進み、去年は1.24まで出生率が下がりました。 日本の3大新聞と言えば、それは、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞のことである。 東京には日本中の人口の約10分の1が集まっている。 大学の授業料は来年度から値上がりするのだろうか。 筑波大学に留学生センターができたのは、10年以上も前のことです。 (以下省略)	1点×10
問題2. 別紙の「地図の分類」 ² の文章のメモノートを作りなさい。	10点

第2回小テスト問題(「スポーツルールの変更」)

問題1. はじめにテープを聴いてメモノートを取りなさい。 テープは2回聴きます	5点
問題2. スポーツルールはどのような事情で変更されますか。テープを聞いて取ったメモノートを参考にして、例を挙げながらできるだけ詳しく説明しなさい。「カラオケボックスと若者」 ³ の文章形式で書きなさい。	20分 5点

第2回小テスト語彙リスト（「スポーツルールの変更」）

- ・変更（へんこう）
 - ・過去
 - ・背景（はいけい）
 - ・主流
 - ・要求
 - ・6人制
 - ・従来（じゅうらい）=今まで、これまで
 - ・サーブ権=サーブをする権利
- （以下省略）

次に、期末テストは「宗教をどう考えるか」のテープ後半を2回聞かせてメモノートを取らせ、課題に答える解答文を600字の序論・本論・結論の構成で書かせた。この期末テストの聞き取り問題には、語彙リストから講義内容を単純に予測しただけで理解が困難な複雑な言い回しがあった。以下に期末テストの問題と語彙リストを示す。

期末テスト問題（「宗教をどう考えるか」）

- 問題1．テープを聞いてメモノートを取りなさい。2回聞きます。
- 問題2．宗教であると判断されるための基準や特徴は何ですか。自分で題をつけて、「カラオケボックスと若者」の文章を参考にして、序論・本論・結論の構成で400字程度で書きなさい。

期末テスト語彙リスト（「宗教をどう考えるか」）

- ・限界的な状況 = ぎりぎりの状況
 - ・シとかセイとか
 - ・信念 = 強く信じること
 - ・～のレベルにとどまる = そのレベルの中にいる
 - ・あいまいな = はっきりしない
 - ・意味判断
 - ・いったん～する = 一度～すると、その前にもどれない
 - ・価値判断
 - ・血液型 = 血液のタイプ、A型、B型、O型、AB型の4つがある
- （以下省略）

宿題は講義を聞いてメモノートを取る、講義内容にしたがって課題作文を書く、という2つが宿題の中心であった。講義テープ毎に語彙リストを配布した。全体評価の35%を占める宿題への評価は、基本的に提出の有無で行った。期限内に提出にされたか否かも評価に加味した。提出された宿

題が満足できる内容であるか否かよりも、聞き取りとノート取りの練習が自宅でなされているか否かで評価を行った。これは聴解力を伸ばすためには同じテープを繰り返し聞き聞ることが大事だと考えたためである。

3. 授業の流れ

以下に授業の流れを図示する。

語句を簡単に書く練習

1文をメモ書きにする練習

小テスト 各1文をメモ書きに書き換える

1段落以上の文章を読んでメモノートを取る練習

テープを聞きながらメモノートを取る練習

小テスト 講義テープを聞きながらメモノートを取り、講義内容にしたがって問題に答える課題作文を書く

デアル体への書き換え練習

1段落文を書く練習、及び講義テープ内容にしたがって1段落で課題作文を書く練習

序論・本論・結論からなる文章構成の確認(書く練習は行わない)、及び講義テープ内容にしたがって序論・本論・結論の構成で課題作文を書く練習

期末テスト 講義テープを聞きながらメモノートを取り、講義内容にしたがって問題に答える課題作文を書く

3.1 メモノート取りのための準備練習

間断なく続く話を聞きながらノートを取るにはできるだけ素早く要点をノートしなければならない。それには簡単なメモ書きをする技術が必要になる。そこで、メモノート取りのための練習プリントを使って簡素文字の書き方、縮約語の作り方、記号の活用、メモ書きなどの基本練習をした。次に、課題作文を書くために、デアル体の練習と既存の文章を用いて文章構成の確認をした。この後で講義テープを聞きながらメモノートを取り、次に課題作文を書くという練習に進んだ。以下に順番に行った練習の概要と結果を述べる。

(1) 語句を簡単に書く練習

ここでは、「歴史」の「厂」などの簡素文字を使うこと、「〒」などの記号を使うこと、「学食」などの縮約語を使うことを紹介した。画数の多い漢語は全部または一部をカタカナ表記する方法などの簡易簡便な表記方法を紹介し練習した。例えば「複雑」は「フクザツ」とカタカナと表記しても意味がわかるのでカタカナで書けばいいこと、しかし、例えば、「セイカク」が「正確」なのか「性格」なのかわかりにくい恐れがあれば、1字を漢字で、もう1字をカタカナで書くということを紹介した。そして、本来の書き方から簡単な書き方へ、またその逆方向へと書き換える練習を行った。以下に練習問題例を示す。

省略表記への書き換え練習問題

- 例．東京大学
1．電話
2．歴史
3．労働
4．学生食堂
5．日本とアメリカの関係
(以下省略)

省略表記から本来の表記への書き換え練習問題

- 例．東大
1．TEL
2．厂史
3．劳働
4．学食
5．日米関係
(以下省略)

(2) 1文をメモ書きにする練習

1文を短い単語や語句に置き換えて素早く書く練習を行った。例えば「血液型性格判断は宗教だとは言えない」という1文を「血液型性格判断 宗教」のように、「飛行機で北海道へ行ってスキーをした」を「北へ飛んで行ってスをした」のように置き換えることがある。単語や語句が相互にどのような意味関係で繋がっているのか接続関係を簡単にする方法として、「 」、{ = }、「 : 」などの記号を活用することを促した。以下に練習問題例を示す。

内は書き換えた例である。

文章からメモ書きへの練習問題

(1～8までは簡素文字、縮約語などへの書き換え練習のため、省略)

9. 少子高齢化が進むと、労働人口の不足が生じます / 生じた。

少子高レイ化 労働人口不足

10. 大学授業料は2006年に値上がりする可能性があるでしょうか。

大学授業料、2006に ?

11. 19世紀後半から20世紀前半に北欧から米国へ大量に移民しました。その背景に貧困がありました。

19C 後半～20C 前半 北欧 (大量移民) 米

貧困

(以下省略)

(3) 一段落以上の文を読んでメモノートを取る練習

ここではテープを聞くのではなく、読んでメモノートを作る予備練習をした。このような予備練習をする理由は、テキストをメモノートに置き換えること自体を練習の目的としたためである。文脈のあるテキストをメモノートに置き換える練習をするためには、テキスト内容を確実に把握しておくことが大事である。テキストを理解するためには聴解よりも読解のほうが確実に考えたからである。読解の場合、表意文字である漢字の助けがあり、理解困難な箇所があればそこに留まって考えることができる。そのため、聴解と比べてより確実に理解できるからである。

まず、教室で一緒に比較的短い文章⁴を読み、キーワードや重要箇所に下線を引いた。次に、それらが互いにどのような意味的繋がりがあるかを考えながら、学生は自分のノートに、教師はホワイトボードにメモノートを取った。教師は、見出しを付けること、並列事項は箇条書きにすること、メモをした単語や語句の相互の意味関係を、記号を用いて指し示したり紙面の余白で浮き彫りにして示すことを強調した、などの方法でメモノートを取り、説明をした。この後で、長い数段落の文章を読んでメモノートを作成する宿題を課した。以下に問題の一部を示す。

メモ形式でノートを取る練習問題

問題．次の文を読んでメモ形式で別紙にノートを取ってください。注意！話しているのを「聞いている」つもりで読んでください。

日本人は最近米を食べなくなつたと言われています。確かに、米の消費量は減っています。では、なぜ、日本人は米を食べなくなつたのでしょうか。私はその原因として次の3つがあると考えています。一つは戦後の学校給食におけるパン食の普及です。戦後、食料が不足し、十分な米がありませんでした。それで日本は米国から米にかわる主食として小麦粉を送ってもらったんです。これでパンを作り、学校で子供達に食べさせたというわけです。これが食習慣形成期の子供達に与えた影響は大きいと言えるんじゃないでしょうか。その結果、(以下省略)

3.2 テープを聞きながらメモノートを取る練習

(1) 語彙リスト

初回の授業時に講義テープ「自分らしく生きる」(20分中4分)を2回聞き、ノートを取った。この講義で使われている語彙の多くは日本語能力試験2級程度であればわかるはずの語彙だと思われた。しかし、結果は学生間に大きな差が見られた。そこで、以降、語彙リストを作成して配布した。各々が自身の必要程度に応じて語彙リストを利用しながら聞き取り練習をす

るだろうことが期待された。また、語彙リストにより聴解が容易になるために、はかどりが得られること、はかどりが得られると達成感も得られ、学生は聴解に自主的に時間を費やし、積極的に取り組むだろうことが期待された。

語彙リストに取り上げる選択基準は、日本語能力試験2級程度に達していないと思われる学生に置いた。新出語の可能性が高いと判断される語はリストに載せた。その他、以下の点に留意して作成した。

清濁の違いが不確かだろうと思われる語には、目で確認するように読み仮名を付けた。

他の日本語への置き換え、例文、反対語・同義語・類義語などで説明が可能な場合はそれを書いた。長い説明を要する語は、口頭説明を聞き取り素早くメモをすることも聴解授業の一部と考え、口頭で説明した。

幾つかの語は意図的にカタカナで書き、学生が自分で意味を類推して漢字に変換するようにした。

語彙リストの例は以下のようである。

語彙リスト（「宗教をどう考えるか」）

- ・特定の=特別に決まっている
 - ・信仰=神様を信じること、宗教を信じること
 - ・疎遠(そえん)な
 - ・身近な
 - ・そもそも=はじまりは、一番最初の歴史を言えば
 - ・生じる=生まれる、できる、起こる
 - ・~に関わる=~に関係がある
 - ・車の両輪=車の左右に付いている車輪、左右にないと車がたおれる
 - ・補(おぎな)う=助ける、ささえる、足(た)す
 - ・押しつぶす
 - ・旅館
 - ・体にガタが来る=体が壊れる、体が動かなくなる、健康でなくなる
- (以下省略)

(2) メモノート取り

テープを聞いてメモノートを取ることを宿題として課した。この時、テープを止めたり巻き戻したりして小刻みに聞いてはならない、はじめから終わりまで通して繰り返し聞くことも3回までという制約を付けた。3回までに制限したのは、宿題を終えるために長時間を費やし、学生が疲れてやる気を失うことを防ぐためである。現実には自宅では自由にノートが取れるた

め、現実的には制約に反して小刻みな聞き方をするだろうと予想された。実はこのように自主的に何度もテープを繰り返し聞いて練習することが宿題のもう一つの意図であった。小刻みでも何度も巻き戻して繰り返し聞くことで耳が慣れ、結果的に聞き取る力が伸びればよいと考えた。

(3) フィードバック

提出メモノートの問題点として、見出しの付け方とノートの余白の取り方の不足があった。初回から十分なノート取りをした3名の学生を除き、一体に次のような問題の傾向が見られた。すなわち、見出しがない、見出しがあってもわかりにくい、余白が少ない、語句を紙面全体に散りばめて纏まりがない、大見出しと小見出しの違いがわかりにくい、単語や語句のAとBがどのような意味関係で相互に繋がっているか、または繋がっていないかがわかりにくい、などの問題である。そこで、これらの問題をノート取りのデモンストレーションというフィードバックで改善することにした。

フィードバックの一つとして、宿題と同じテープを教室で一緒に再度聞きながら、ホワイトボードにノート取りのデモンストレーションを毎回して見せた。大見出しを際立たせる工夫としてマークを付ける、並列次項に番号を振る、ノートの余白で単語や語句の相互の意味関係を浮き彫りにする、ことなどを板書で示して見せた。繰り返してテープを2度聞き、2度目は1度目の板書ノートに加筆・訂正をして見せ、訂正・加筆のために十分な余白を取る重要性を強調した。フィードバック毎にこれを繰り返して見せ、ノートの取り方を工夫するよう促した。

4. 結果

初回到語彙の手当てをせずに講義テープを聞かせてノートを取らせたところ、学生間に大きな差が見られた。3名はほぼ要点を聞き取り、一見して内容がわかる見やすいノートを取った。しかし、このうち1名は前学期に異なる科目番号で同様の聴解作文の授業を履修済みの学生であった。したがって、どのように聞くべきか、どのようにノートを取るべきかを心得ていた学生だと言える。しかし、この学生は前学期では当初、ノート取りが困難だった。1名は1語しかノートできなかった。残りの9名はノートできた要点の情報量が非常に不十分または不十分で、ノートの取り方もわかりにくく見辛かった。この結果からノートが取れなかった理由は単語力が原因だと判断し(三國・小森・安藤)以降、語彙リストを配布して語彙の手当てをした。

この結果、初回到十分なノートが取れなかった学生を含め、ノートの情報量が大幅に増え、一見で講義の概要がわかるような要領のよいノートが取れるようになった。これは期末試験の結果においても同様だった。この理由として、語彙リストによって講義内容がある程度予測できること、それにより、聞き手が自身の持つ知識を参照しながら能動的に聞くことができること、素早くノートに記録しておくことで次の聞き取りに意識が集中できることが考えら

れる。宿題の提出率はよく、聞き取り練習をよくしていることが窺えた

次第にどの学生のノートにも見出しが付くようになり、紙面上の語句の配置にも気を配るようになった。コースの終わり頃には全員、「読んでわかる」ノートから「一目でわかる」ノートを取るようになった。

メモノートを見ると、漢語を漢字をカタカナで表記する方法や縮約語、頭文字1字で単語を代表させる方法、記号で語句と語句の接続関係を指し示す方法などは積極的に使われていた。簡素文字は新しい漢字と受け止められるためか、ほとんど用いられなかった。

5. 終わりに

以上、聴解作文の授業について聞き取りとメモノート取りを中心に報告した。語彙リストによる語彙の手当てと、メモノート取りの練習をしたところ、要点を聞き取ってノートを取ることができるようになったことがクラス全体の傾向として認められた。これは事前に配布された語彙リストが講義内容を予測する手がかりとなり、効率的な聞き方をすることができたためではないかと考えられる。今回の授業の反省点として、語彙が不足している学生を考慮して語彙リストの選択基準を低くしたことがある。しかし、これはその他の学生にとって挑戦度が低くなった可能性がある。今後の課題として手当てをする語彙数を少なくして今回の結果と比べ、聞き取りの成果が見られる最少の語彙手当ての範囲を探りたい。

注

1. ピロッタ丸山・長田・清水(1996)『大学の授業へのパスポート』凡人社
2. アカデミック・ジャパニーズ研究会編著(2001)『大学・大学院 留学生の日本語 読解編』アルク 23頁掲載文「地図の分類」利用
3. 浜田・平尾・由井(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版 70頁掲載文「カラオケボックスと若者」利用
4. アカデミック・ジャパニーズ研究会編著(2001)『大学・大学院 留学生の日本語 読解編』アルク 11頁掲載文「言葉の役割」利用

参考文献

- 三國・小森・安藤(2005)「聴解における語彙知識の量的側面が内容理解に及ぼす影響」『日本語教育』125:76-85 日本語教育学会